

## 富山県感染症発生動向速報

(2025 年第 49 週分・12 月 1 日～12 月 7 日)

## ■今週の主な動向

## ○インフルエンザの報告数は、2 週連続で減少しましたが、依然として多い状況です。

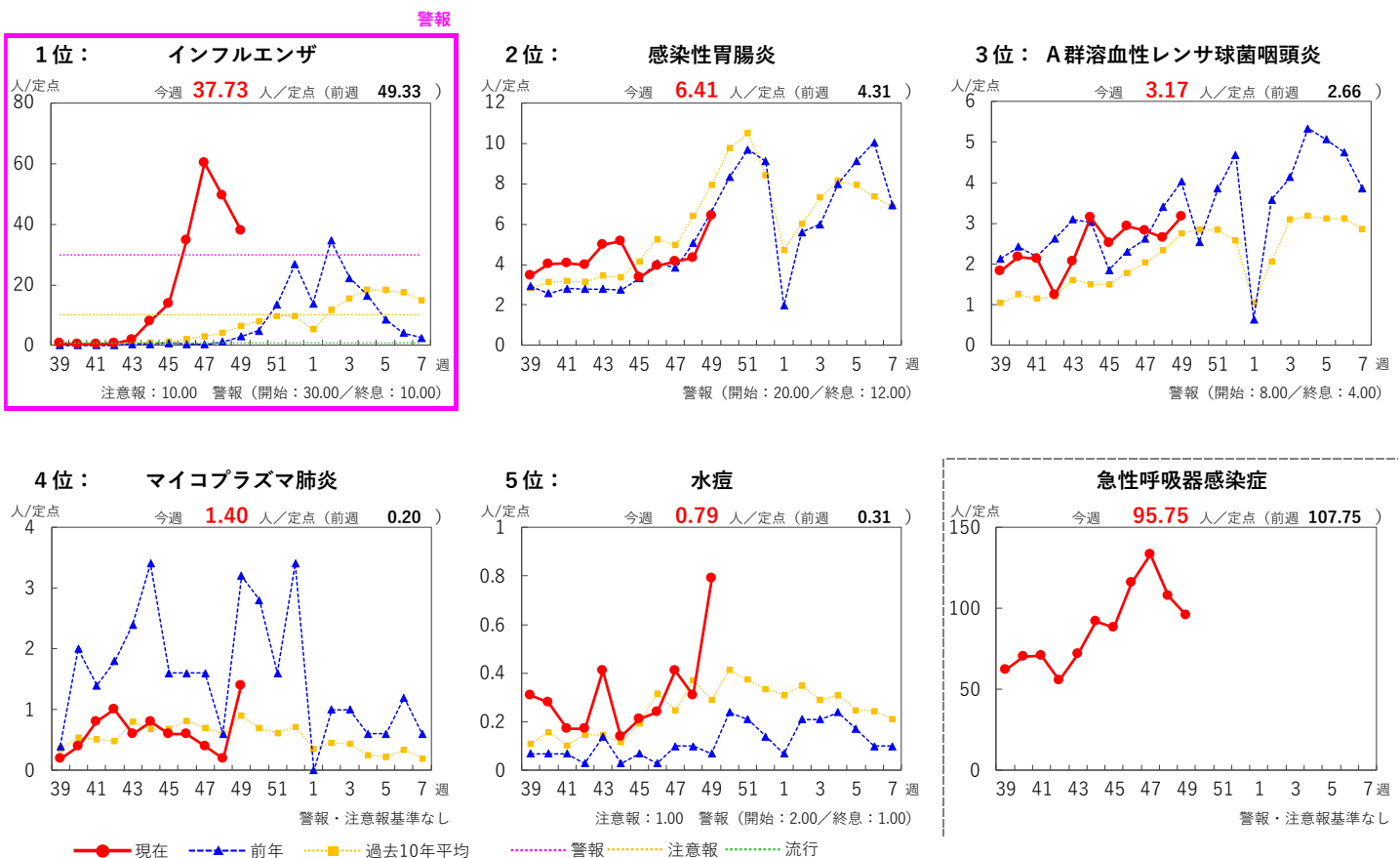
県内の患者報告数は今週 37.73 人/定点となり、第 47 週 (60.08) をピークに減少に転じました。引き続き、感染予防及び感染拡大防止のため、手洗いや咳エチケット、換気などの基本的な感染対策を心がけましょう。(インフルエンザの疫学所見、第 48 週インフォメーション参照)

## ○感染性胃腸炎の報告数が増えています。

小児科定点からの感染性胃腸炎の報告数が今週 6.41 人/定点となり、先週 (4.31) から増加しました。例年冬季に増加する傾向があります。ウイルスや細菌などが主に食品や手指を介して口から入ることによって感染するため、トイレの後や、調理・食事の前には、石けんと流水で十分に手を洗って予防しましょう。(第 46 週インフォメーション参照)

## ■定点報告の感染症

## 今週の富山県内上位 5 疾患 + 急性呼吸器感染症 (第 49 週・12/1～12/7)

厚生センター (保健所) 管内別、直近の推移: <https://www.pref.toyama.jp/1279/kansen/#b1>

## ■全数報告の感染症

二類感染症 結核 2 件 (①20 歳代、女性 ②60 歳代、女性)

四類感染症 E 型肝炎 1 件 (40 歳代、男性)

レジオネラ症 1 件 (70 歳代、男性、肺炎型)

五類感染症 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 件 (第 48 週診断分: 80 歳代、男性、G 群)

百日咳 1 件 (40 歳代、男性)



富山県感染症情報センター (富山県衛生研究所内)

TEL: 0766-56-5431 (直通)

HP: <https://www.pref.toyama.jp/1279/kansen/>



## 県内の梅毒が過去最多に！ 早期発見・早期治療が重要です

### 《 インフォメーション 》

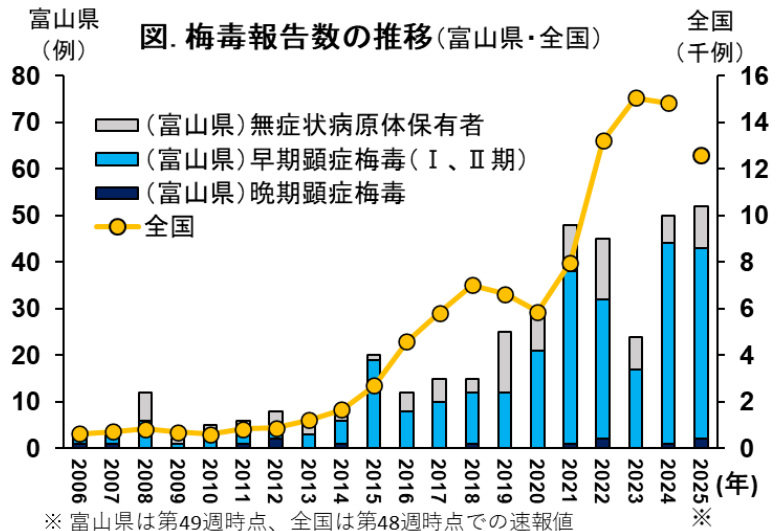
#### ●梅毒

全国の梅毒報告数は2011年頃から増加傾向となり、2019年～2020年には減少したものの、2021年に再度増加へ転じ、2022年以降は年間13,000例を超えています。2025年は第48週時点の速報値で既に12,587例が報告されています（図：折れ線グラフ）。なかでも先天梅毒の報告数は2018～22年が20例/年程度であったのに対し、2023～25年には30例/年以上に増加しています。

県内でも梅毒報告数の増加がみられ、2025年は第49週時点で52例（男性：20～50歳代24例、60歳代5例、70歳代2例、女性：20～50歳代21例）と、感染症法施行（1999年4月）以降で最多となりました（図：棒グラフ）。また、早期顕症梅毒（Ⅰ、Ⅱ期）の割合が79%（41/52）と高くなっています。これまで以上に感染対策に対する意識を高める必要があります。

梅毒は、梅毒トレポネーマ（細菌）を原因とする感染症で、主に感染者との性的接触によって広がります。感染すると、潜伏期、早期顕症梅毒Ⅰ期（感染部位にしこりや潰瘍）、早期顕症梅毒Ⅱ期（全身に多種多様な病変）という経過をたどりますが、Ⅰ期とⅡ期の間に症状がない潜伏梅毒の時期があり、これが受診の機会を逃す一因となっています。なお、潜伏梅毒はⅡ期以降にも現れ、数年～数十年後に、皮膚や骨のゴム腫、心血管梅毒を発症することがあります（晩期顕症梅毒）。また、妊娠中の感染では胎児へ感染し、流産や死産、先天異常（難聴、肝脾腫、角膜炎、骨異常、心奇形、歯の異常等）、精神発達遅延等を持った状態（先天梅毒）となることがあります。

梅毒は主にペニシリン系抗菌薬による治療が可能で、早期の治療が重要です。Ⅱ期では皮膚、陰部、口、腎臓、脳・神経、骨などの臓器に多彩な症状が認められます。少しでも心当たりがあれば、専門医を受診するか、梅毒の検査を受けましょう。検査は、保健所、厚生センターにて匿名で受けることが可能です[梅毒、クラミジア検査:富山県、HIV(エイズ)性感染症相談・抗体検査:富山市]。感染予防には適切にコンドームを使用し、不特定多数との性行為を避けることが重要です。また、妊娠が分かったら妊婦健診を受けましょう。妊娠後期では先天梅毒を防げない場合があります。妊娠中に感染の心当たりがあればすぐに医療機関を受診し、検査や治療を受けましょう。



○感染症発生動向調査報告状況（2025年第49週 2025年12月1日～2025年12月7日）

分類		疾患	今週報告分（第49週）					累積報告数（2025年第1週（2024年12月30日）～）							
			新川	中部	高岡	砺波	富山市	計	新川	中部	高岡	砺波	富山市	計	
全数把握	二類感染症	結核					2	2	6	2	19	13	48	88	
		（再掲）結核：無症状病原体保有者を除く							5	1	12	7	30	55	
	三類感染症	腸管出血性大腸菌感染症							2	1	7	3	4	17	
	四類感染症	E型肝炎					1	1			5		2	7	
		A型肝炎									1	1		1	3
		重症熱性血小板減少症候群（SFTS）										1			1
		デング熱										1			1
		レジオネラ症			1				1	1	1	6	3	18	29
	五類感染症	アメーバ赤痢										1		2	3
		カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症										4		5	9
		急性脳炎										1	1	1	3
		劇症型溶血性レンサ球菌感染症							1		4		11	16	
		後天性免疫不全症候群（H I V感染症を含む）									1		1	2	
		ジアルジア症											1		1
		侵襲性インフルエンザ菌感染症							2		1	3	4	10	
		侵襲性肺炎球菌感染症							5		8	4	23	40	
		水痘（入院例）							1		1			2	
		梅毒							5	2	9	4	32	52	
		百日咳					1	1	29	143	148	45	279	644	
		風しん											1		1
急性呼吸器感染症（ARI）定点（48定点）	急性呼吸器感染症（※1）	457	429	1,297	561	1,852	4,596	11,368	10,267	38,475	9,710	48,289	118,109		
		65.29	85.80	99.77	80.14	115.75	95.75								
	インフルエンザ	186	163	367	269	826	1,811	1,941	1,564	4,428	1,947	6,510	16,390		
		26.57	32.60	28.23	38.43	51.63	37.73								
	COVID-19	12	2	5	14	3	36	1,710	711	1,925	1,516	1,817	7,679		
小児科定点（29定点）	R Sウイルス感染症	2	1	3		2	8	75	74	367	58	410	984		
		0.50	0.33	0.38		0.20	0.28								
	咽頭結膜熱	1		3		1	5	84	44	330	7	118	583		
		0.25		0.38		0.10	0.17								
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	5	4	36	3	44	92	178	298	1,794	234	2,388	4,892		
		1.25	1.33	4.50	0.75	4.40	3.17								
	感染性胃腸炎	33	23	16	10	104	186	1,325	796	1,571	575	5,133	9,400		
		8.25	7.67	2.00	2.50	10.40	6.41								
	水痘			9		14	23	11	97	87	26	322	543		
				1.13		1.40	0.79								
	手足口病							4	8	60	17	70	159		
	伝染性紅斑	9	1	6		2	18	151	331	789	164	1,253	2,688		
		2.25	0.33	0.75		0.20	0.62								
	突発性発しん		1	4		5	10	15	32	137	35	161	380		
			0.33	0.50		0.50	0.34								
	ヘルパンギーナ	1	2				3	31	56	290	62	226	665		
		0.25	0.67				0.10								
	流行性耳下腺炎	1				1	2	4	12	9	10	31	66		
		0.25				0.10	0.07								
眼科定点（7定点）	急性出血性結膜炎									5	95		100		
	流行性角結膜炎	1					1	12	19	32	26	3	92		
		1.00				0.14									
基幹定点（5定点）	細菌性髄膜炎										1	1	2		
	無菌性髄膜炎										1	1	2		
	マイコプラズマ肺炎			3	2	2	7	28	9	44	38	18	137		
			3.00	2.00	2.00	1.40				5		5			
入院サーベイランス（5定点）	インフルエンザによる入院患者（※2）			13	6	9	28	12	2	26	17	45	102		
	COVID-19による入院患者			3		3	6	134	112	104	155	328	833		

本週報のデータは速報値であり、今後、調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。

※1 急性呼吸器感染症は2025年第15週（4/7～）より開始しました。（参考：<https://www.pref.toyama.jp/1279/kansen/topics/ari/>）

※2 インフルエンザによる入院患者累計報告数は、2025年第36週（9/1～）の集計です。

## インフルエンザ情報（富山県の型別患者報告状況）

このデータは、定点医療機関で実施されたインフルエンザ迅速診断キットの診断数を集計したものです。

現在、下の表によると、A型が91.1%となっています。

**第49週（12/1～12/7）：富山県 37.73人/定点**（単位：件）

厚生センター・ 保健所名	報告数/定点数	迅速診断キット		その他※2	合計
		A型	B型		
新川	7 / 7	170	1	15	186
中部	5 / 5	147	0	16	163
高岡	13 / 13	326	0	41	367
砺波	7 / 7	262	0	7	269
富山市	16 / 16	744	1	81	826
富山県	48 / 48※1	1,649	2	160	1,811
富山県累計（2025年36週～）		9,200	27	822	10,049

※1 48の定点医療機関のうち、インフルエンザと診断した医療機関が48か所あったことを示します。

※2 「その他」には、臨床症状等によりインフルエンザと診断したが型別までは不明な患者や迅速診断キットの結果がA型とB型共に陽性の患者が対象となります。

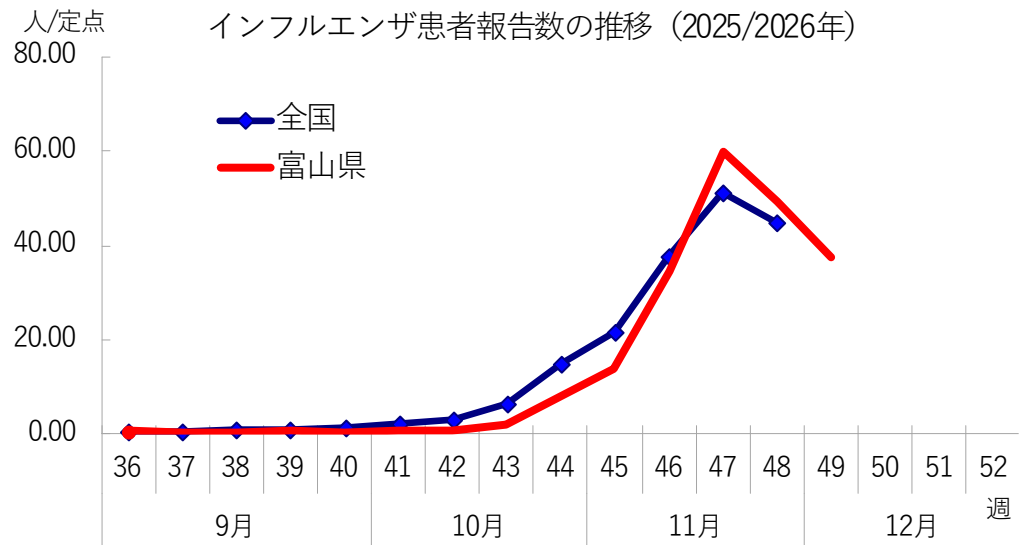


## インフルエンザ情報（全国、富山県の患者報告状況）

## ● 定点医療機関からのインフルエンザ患者報告状況 第 49 週（12/1～12/7）

富山県 37.73 人/定点 [新川 (26.57)、中部 (32.60)、高岡 (28.23)、砺波 (38.43)、富山市 (51.63)]

今週の県内の患者報告数は、37.73 人/定点となり、第 47 週をピークに 2 週連続で減少しました。

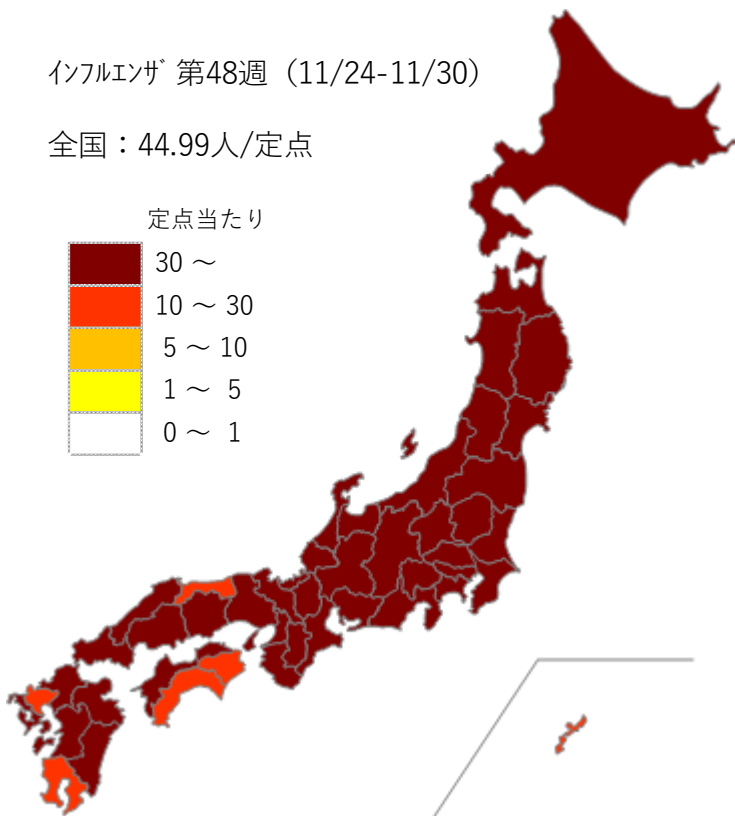
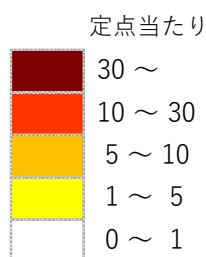


## ● 都道府県別インフルエンザ患者報告状況 第 48 週（11/24～11/30）

全国患者報告数は、定点医療機関あたり 44.99 人となり、前週の 51.26 人より減少しました。19 県で前週より増加しています。28 都道府県で前週より減少しています。

インフルエンザ 第48週（11/24-11/30）

全国：44.99人/定点



都道府県	人/定点	都道府県	人/定点
北海道	44.62 ↓	滋賀県	45.53 ↓
青森県	53.75 ↓	京都府	53.03 ↓
岩手県	61.50 ↓	大阪府	31.45 ↓
宮城県	51.11 ↓	兵庫県	42.24 ↓
秋田県	49.60 ↓	奈良県	42.98 ↓
山形県	52.90 ↓	和歌山県	31.60 ↓
福島県	64.81 ↓	鳥取県	28.10 ↑
茨城県	58.49 ↑	島根県	34.50 ↑
栃木県	58.83 ↓	岡山県	47.48 ↑
群馬県	55.09 ↓	広島県	32.60 ↑
埼玉県	74.81 ↓	山口県	40.33 ↓
千葉県	47.93 ↓	徳島県	21.03 ↑
東京都	35.76 ↓	香川県	33.10 ↑
神奈川県	45.66 ↓	愛媛県	39.38 ↓
新潟県	57.84 ↑	高知県	19.11 ↑
富山県	49.33 ↓	福岡県	48.87 ↑
石川県	47.66 ↓	佐賀県	24.92 ↑
福井県	47.18 ↑	長崎県	43.45 ↑
山梨県	32.71 ↓	熊本県	36.67 ↑
長野県	72.49 ↑	大分県	57.90 ↑
岐阜県	52.93 ↑	宮崎県	38.00 ↑
静岡県	40.17 ↓	鹿児島県	28.04 ↑
愛知県	55.73 ↓	沖縄県	21.82 ↓
三重県	44.06 ↓	全国	44.99 ↓

